

平成26年度福島県学力調査結果から見た

# 英語科の課題と今後の対策

県学力調査結果から（会津）

## 成果



- ① 今まで課題であった長文読解問題の正答率が上がった。どの設問も全国平均正答率を上回っている。USE-READ等を上手に活用してきた各校の指導の結果だと思われる。
- ② リスニングの対話文の応答（対話を聞いて、適切に応答する問題）についての問題でも、全ての設問が全国平均正答率を上回った。授業での聞く活動の充実が伺える。

大きな成果です！！ 昨年は全ての設問で全国平均正答率を下回っていました。

## 課題



- ① 語形・語法の知識・理解を問う問題の正答率が低い。全ての設問で、全国平均正答率を下回っている。
- ② 「場面に応じて書く英作文」や「3文以上の英作文」の正答率が全国平均正答率に比べ低い。

英語の学力が、県学力調査で全て明らかになるとは限りません。しかし、生徒ができなかった点を振り返り授業改善につなげたいところです。

会津域内で正答率の低かった問題の内容を確認し、今後の対策を提案します。

## 正答率の低かった問題（会津）

※ 県学力調査の問題は公表できないため、同様の問題を示します。（定着確認シートから）

### 1 語形・語法の知識・理解を問う問題

例 次の(1)～(3)の文について、意味の通る英文になるように、( )の前後の英語や対話の流れを参考にして、( )内に入る最も適する語を下のA～Eの中から一つずつ選び、記号を書きなさい。

A: I have a lot of homework this weekend.  
 B: You ( ) stay home and study hard.  
 ア can't    イ will not    ウ must    エ has to    (H26 2年第4回)

### 2 場面に応じて書く英作文

例 次は卓也のある日の行動を記したメモの一部と、それをもとに英語で書いた日記です。メモの内容と合うように、AとBの( )に適する英文を書きなさい。なお、Bについては、場面にふさわしい英文を自分で考えて書きなさい。

#### メモ

5月4日(日)  
 [午前] 音楽を聴いた。  
 [午後] 体育館に行った。  
 [夕食後] テレビを見た。

#### 日記

日記なので、過去形を用いて書く。

Sunday, May 4  
 In the morning, ( A ) .  
 In the afternoon, I went to the gym with my friends.  
 I ( B ) there.  
 I watched TV after dinner.

(H26 2年第1回)

### 3 3文以上の英作文

例 英語の授業で、この4月～6月にあった出来事について書くことになりました。思い出に残る出来事について、英語でタイトルを付け、次の  内の条件に従い、英語で書きなさい。

- ・内容につながりのある3文以上で書くこと。
- ・「感想」や「気持ち」も加えること。

(H26 2年第2回)

◎ 2、3の英作文については、定着確認シートでも、正答率が低い問題であり、今までも課題となっている問題です。

## 今後の対策

「Can-do リスト」形式の学習到達目標などを意識した上で・・・



これらは、会津域内全体の傾向を踏まえたものです。各校では、自校の結果を分析し、継続実践できる具体策を講じてください。

### 「語形・語法」の定着に向けた指導については 課題①

- 活用させることで定着につなげる。
  - ・練習問題だけでなく、1単位時間や単元を越えて、計画的に活用させる。
- やや長いスパンで「語形・語法」を再確認する時間を設定する。**
  - ・1単位時間や単元だけでなく、意図的に繰り返し指導する。**定着確認シート**を活用し、「語形・語法」を再確認することも多くの学校で行われている。
  - ・関連のある文法を、再度まとめて整理し理解を深める時間を設ける。
  - ・毎回の単語テストやコンテスト等の内容・方法を工夫することも考えられる。
- 次の点について、改めて確認し、指導に生かす。
  - ・文法指導は、言語活動と一体的に行う。
  - ・英語と日本語の違い（語順など）に気付かせる指導を行う。
  - ・発音と綴りの関係に気付かせる指導を行う。活動レベルでも、話すことで終わらずに、書く活動につなげることが大切である。

### 「英作文」の指導については 課題②

- 思考して書く活動を定期的に授業に位置付ける。
  - ・使用場面や状況などを意識し、使用すべき言語材料を自ら選択できるような「書く活動」を授業で継続的に位置付ける。題材は、生徒の書く意欲を高めたり、書く必然性を感じさせたりするものになるよう配慮する。
  - ・定着を目指した書く活動、活用を意図した書く活動のバランスにも配慮する。
  - ・個々が「できた」と感じ、自信がもてるよう支援を工夫する。
- 【まとまりのある英文を書かせるために】
- USE-Write や Mini-project で、まとまりのある英文を書く時間を積極的に設定する。**
  - ・**定着確認シート**にも、まとまりのある英文を書く問題が出題されている。授業で「まとまりのある文」を作成させ、定着確認シートでも取り組ませ、定期テストでも出題するなど工夫する。
- 一問一答でなく、ワンセンテンスを付け加えることを日常的に意識させる。
  - ・「話す活動」や「書く活動」において意識させる。（ウォーミングアップでの英問英答等でも、プラスワンセンテンスを意識し、継続して行わせることで効果が上がります。）

長文読解については、今後も USE-READ でタスクを課した読解指導を継続してください。